

ガスこんろの事故に注意 ～火災事故に潜むヒューマンエラー～

2018年度において、ガスこんろで多くの重大製品事故^{※1}が発生しました。ガスこんろの事故は火災に直結すると共に、やけどなどの被害に繋がりやすいため注意が必要です。2018年において3件の死亡事故が発生しています。ガスこんろの使用に関する注意喚起を行い、事故の未然防止を図ります。

ガスこんろに関して、2008年10月に調理油過熱防止装置及び立ち消え安全装置の装備が法令で義務付けられました。この規制に先立ち、2008年4月から業界団体の自主基準により調理油過熱防止装置がこんろに標準装備され始めています。また、この自主基準と併せて、多くの安全装置を装備しているガスこんろが販売されています。



着衣着火の再現

しかし、依然として誤った使い方による事故や安全装置の付いていない古いこんろを使用している事故が発生しています。2013年度から2018年度の6年間にNITE（ナイト）に重大製品事故として通知された情報（以後、重大事故情報と記す）の中で、ガスこんろの事故は225件^{※2}ありました。そのうち、調査が終了した事故が182件であり、使用者の誤使用などにより発生した事故は99件ありました。事故の多くは誤った使い方が原因となっていることがわかります。特に、使用中にその場を離れたり、汚れを放置したりすることが原因の事故が多く発生しています。ガスこんろの事故は火災事故に至る可能性が高く、周囲に被害が及びます。事故の事例や事故防止のためのポイントを確認し、事故を未然に防ぎましょう。

■事故事例

- 調理油過熱防止装置の付いていないガスこんろで調理中、天ぷら鍋をかけたまま放置したため、鍋の油が過熱し、出火した。【2016年12月、拡大被害】
- 長時間加熱されたため、グリル庫内の魚や脂分などが発火し、内部が焼損した。【2017年1月、製品破損】
- ガスこんろに鍋をかけて調理していた際、ガスこんろの周辺にあった可燃物に着火し、建物を全焼、1名が死亡した。【2014年9月、死亡】
- 使用者が煮こぼれなどを放置していたため点火しづらくなり、繰り返しの点火動作で漏れたガスに引火した。【2017年4月、軽傷】

■ガスこんろの気を付けるポイント

- ・使用中はその場から離れない
- ・グリルは使用后、こまめに掃除する
- ・グリル庫内で調理物や汚れなどが発火した場合は、扉を開けると火があふれ周囲に燃え広がるおそれがあるため、操作ボタンや器具栓つまみを消火の状態に戻し、火が収まるまでグリルの扉を開けない
- ・煮こぼれや油汚れはきれいに拭き取る
- ・ガス臭いときは絶対に火を点けず、ガス栓を閉めて販売店やガス事業者に連絡をする
- ・点火しにくいなどで繰り返し点火操作をするときは、周囲のガスがなくなるまでしばらく待つ
- ・こんろの周囲に燃えやすいものを置かない

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故情報

(※2) 対象外情報を除いた事故発生件数。

1. 事故の発生状況

(1) 年度別 被害状況別 事故発生件数

2013年度から2018年度までの間にNITEに通知された重大事故情報の中で、ガスこんろの事故について、図1に年度別の事故発生件数を示します。昨年は規制後の安全対策が施されたこんろで半数以上の事故が発生しています。

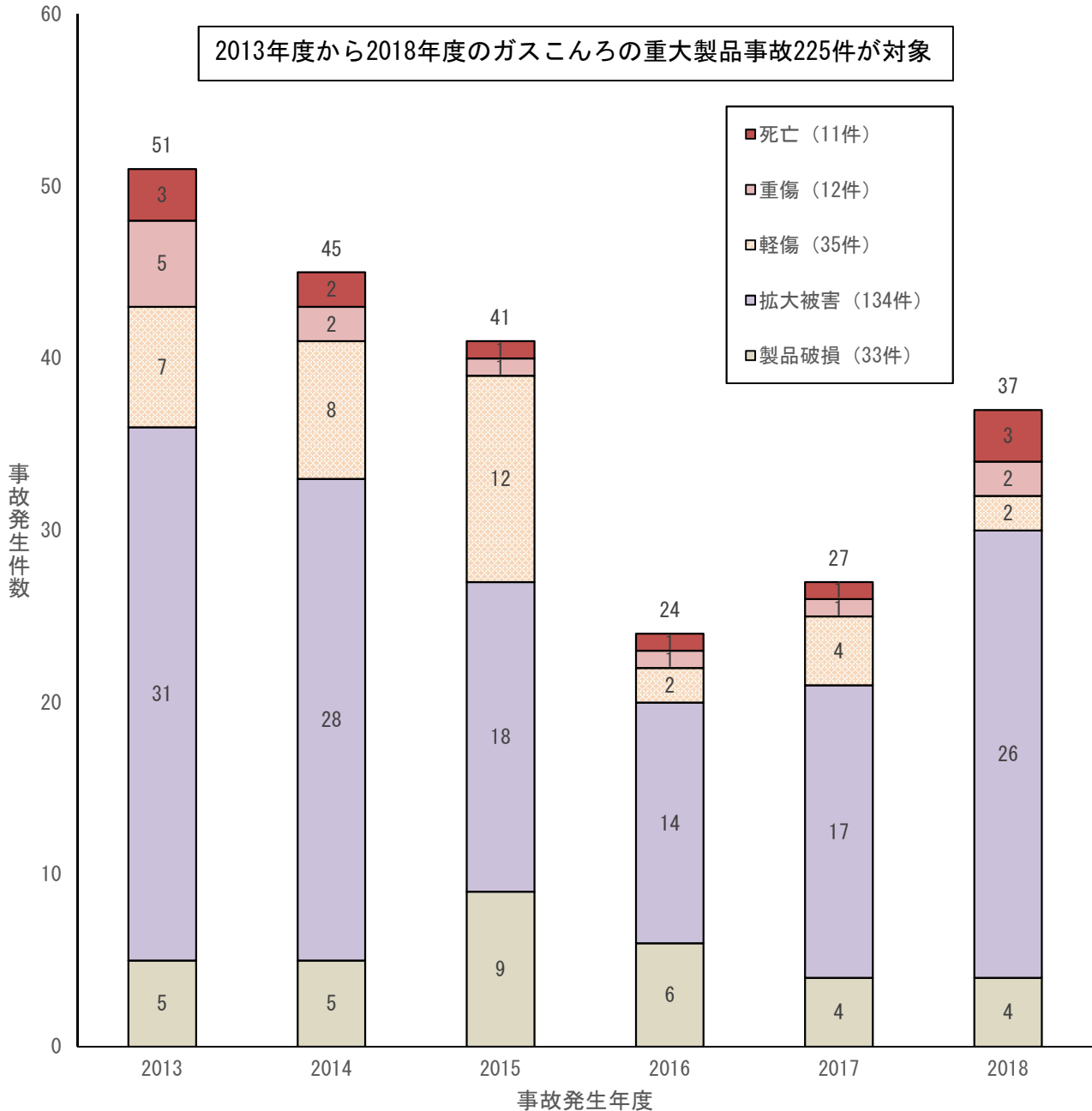


図1 年度別 事故発生件数

(2) 事故原因区分別 事故発生件数

図2に2013年度から2018年度の6年間におけるガスこんろの重大事故情報225件のうち、調査が終了し、公表している182件の「事故原因区分別 事故発生件数」を示します。

事故原因区分（別紙1参照）に基づいて分類すると、

- 製品に起因する事故（事故原因区分 A、C、G3） 5件（3%）
 - 製品に起因しない事故（事故原因区分 D、E、F） 147件（81%）
 - 原因不明のもの（事故原因区分 G3を除く G） 30件（16%）
- の比率になっています。

ガスこんろの重大事故情報は、「製品に起因しない事故」が147件（81%）と最も多く、そのうち99件は使用者の誤使用などによる事故です。誤使用事故の中では「グリル庫内で発火した事故」「調理油が発火した事故」「こんろ周囲に燃えやすいものを置いていたため発火した事故」などが多くを占めています。

製品に起因する事故は5件（3%）であり、そのうち2件が「パッキンが長年の使用によりひび割れてガスが漏れた」などの経年劣化により発生した事故です。ガス臭さを感じたり、換気してもにおいが消えないときは、販売店やガス事業者に連絡し、点検を受けましょう。

2013年度から2018年度 ガスこんろの事故225件のうち、調査の終了した182件が対象

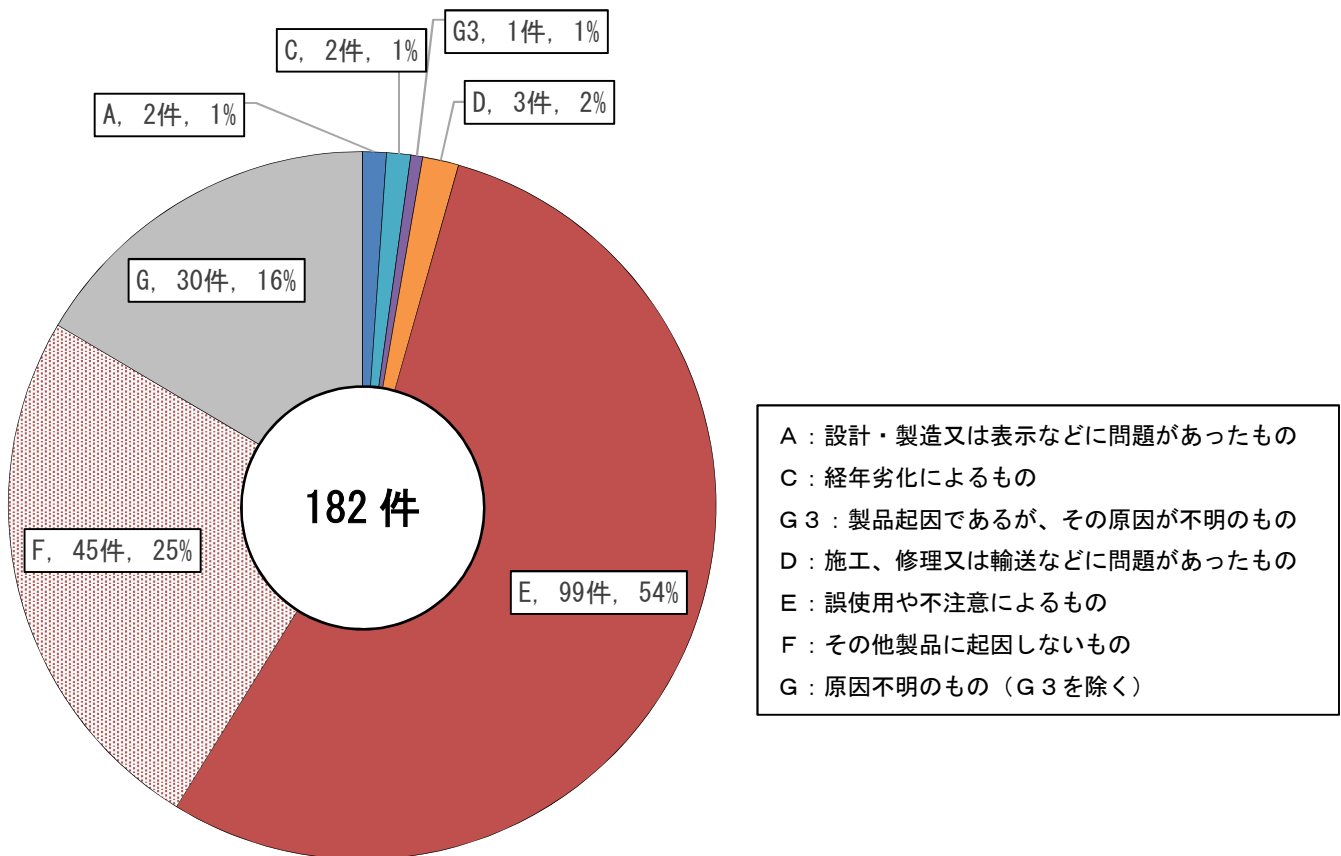


図2 事故原因区分別 事故発生件数

(3) 事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数

表1に「事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数」を示します。

2013年度から2018年度の6年間のガスこんろの重大事故情報によると、11名が死亡しています。そのうち2名は誤使用など製品に起因しない事故によるものです。また、死亡事故の他にも12名が重傷、47名が軽傷を負っています。

表1 事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数^{※3}

| 被害状況 | | 人的被害 | | | 物的被害 | | 総計 | |
|-------------------|------------------------|----------------------|------------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|--------------------------|
| | | 死亡 | 重傷 | 軽傷 | 拡大被害 | 製品破損 | | |
| 原因区分 | | | | | | | | |
| 製品に起因する事故 | A:設計・製造又は表示などに問題があったもの | | | | | 2 [2] | 2 (0) [2] | |
| | C:経年劣化によるもの | | | | 1 [1] | 1 [1] | 2 (0) [2] | |
| | G3:製品起因であるが、その原因が不明のもの | | | | | 1 [1] | 1 (0) [1] | |
| | 小計 | 事故件数 被害者数 火災件数 | 0 (0) [0] | 0 (0) [0] | 0 (0) [0] | 1 (0) [1] | 4 (0) [4] | 5 (0) [5] |
| 製品に起因しない事故 | D:施工、修理又は輸送などに問題があったもの | | | 1 (1) [1] | 1 [1] | 1 [1] | 3 (1) [3] | |
| | E:誤使用や不注意によるもの | 1 (1) [1] | 4 (4) [1] | 22 (25) [22] | 57 [57] | 15 [15] | 99 (30) [96] | |
| | F:その他製品に起因しないもの | 1 (1) [1] | 4 (4) [4] | 7 (8) [7] | 30 [30] | 3 [3] | 45 (13) [45] | |
| | 小計 | 事故件数 被害者数 火災件数 | 2 (2) [2] | 8 (8) [5] | 30 (34) [30] | 88 (0) [88] | 19 (0) [19] | 147 (44) [144] |
| G:原因不明のもの (G3は除く) | | 6 (6) [6] | 1 (1) [1] | 2 (7) [2] | 15 [15] | 6 [6] | 30 (14) [30] | |
| H:調査中のもの | | 3 (3) [3] | 3 (3) [3] | 3 (6) [3] | 30 [29] | 4 [4] | 43 (12) [42] | |
| 総計 | | 事故件数 被害者数 火災件数 | 11 (11) [11] | 12 (12) [9] | 35 (47) [35] | 134 (0) [133] | 33 (0) [33] | 225 (70) [221] |

(※3) 対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。[]は火災件数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(4) 年齢別事故発生状況

図3に2013年度から2018年度の6年間におけるガスこんろの重大事故情報225件のうち、被害者の年齢が判明している139件「年齢別 被害状況別 事故発生件数」を示します。139件中92件が60歳以上の事故であり、高齢者の被害が目立ちます。死亡事故8件中6件が60歳以上の事故であり、高齢者の人的被害が重篤化しやすいことがうかがえます。

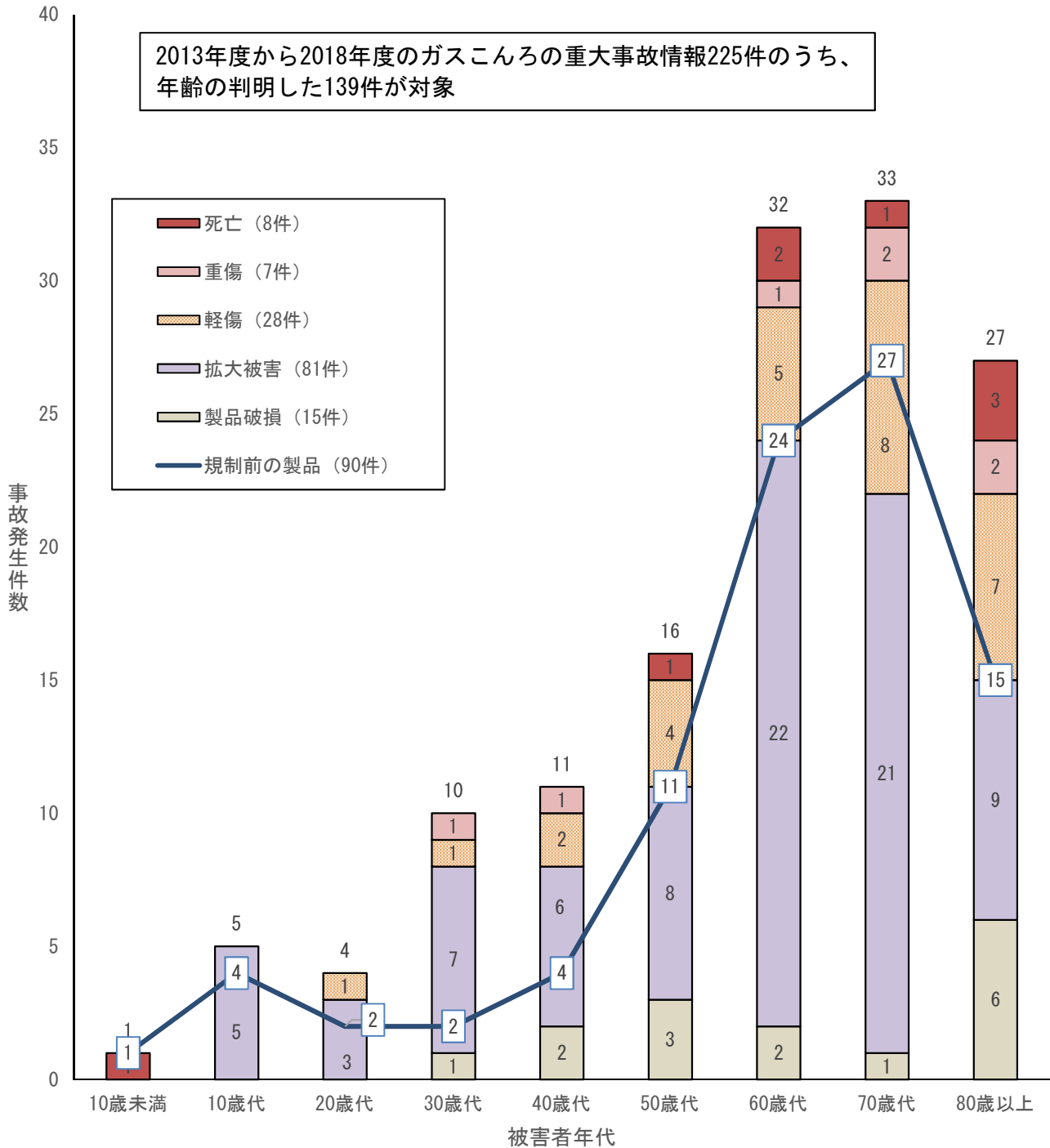


図3 年齢別 被害状況別 事故発生件数

(5) 誤使用などによる事故の発生状況

表2に使用者の誤使用などによる事故99件の「事故発生状況別 被害状況別 事故発生件数」を示します。また、図4に誤使用事故に対する安全装置の有無に関して示します。

「調理油が過熱し発火」の事故及び「グリルの消し忘れや放置により庫内の食材などが過熱し発火」の事故がそれぞれ20件以上発生しています。死亡事故は「こんろ周囲に燃えやすいものを置いていたため発火」の事故で発生しています。

なお、現在流通しているガスこんろは調理油過熱防止装置の標準装備が2008年10月より義務付けられています^{※4}。「調理油が過熱し発火」の事故24件のうち、23件は調理油過熱防止装置がないこんろを使用していました。2008年以前の古い年式のこんろを使用している場合は、新しいこんろへの買い替えをご検討ください。

表2 事故発生状況別 被害状況 事故発生件数^{※3}

| 被害状況 | | 人的被害 | | | 物的被害 | | 総計 |
|-----------------------------|------|-----------------|-----------------|-----------------|------------|----------|-------------------|
| | | 死亡 | 重傷 | 軽傷 | 拡大被害 | 製品破損 | |
| 事故の発生状況 | | | | | | | |
| 調理油が過熱し発火 | | | | 6 (8) [6] | 17 [17] | 1 [1] | 24 (8) [24] |
| グリルの消し忘れや放置により庫内の食材などが過熱し発火 | | | | 5 (5) [5] | 14 [14] | 3 [3] | 22 (5) [22] |
| こんろの周囲に燃えやすいものを置いていたため発火 | | 1 (1) [1] | 1 (1) [1] | 6 (6) [6] | 8 [8] | 2 [2] | 18 (8) [18] |
| グリル庫内の油脂や食品かすなどが発火 | | | | | 10 [10] | 5 [5] | 15 (0) [15] |
| 煮こぼれによる配管の腐食などで漏れて滞留したガスに引火 | | | | 3 (3) [3] | 4 [4] | 3 [3] | 10 (3) [10] |
| 着衣着火 | | | 2 (2) [0] | 2 (2) [2] | | | 4 (4) [2] |
| 小計 | 事故件数 | 1 | 3 | 22 | 53 | 14 | 93 |
| | 被害者数 | (1) | (3) | (24) | (0) | (0) | (28) |
| | 火災件数 | [1] | [1] | [22] | [53] | [14] | [91] |
| その他 | | | 1 (1) [0] | | 4 [4] | 1 [1] | 6 (1) [5] |
| 総計 | 事故件数 | 1 | 4 | 22 | 57 | 15 | 99 |
| | 被害者数 | (1) | (4) | (24) | (0) | (0) | (29) |
| | 火災件数 | [1] | [1] | [22] | [57] | [15] | [96] |

(※3) 対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。[]は火災件数。人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(※4) 業務用ガスこんろ及び卓上型一口ガスこんろは例外としている。

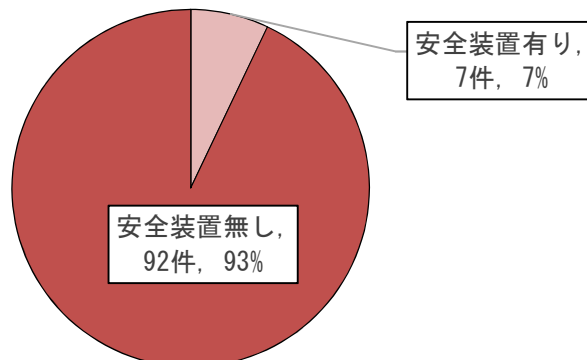


図4 誤使用事故における安全装置の有無

2. ガスこんろの事故事例

(1) 調理油が過熱し発火（安全装置無）

2016年12月（東京都、80歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

ガスこんろを使用中、ガスこんろ及び周囲を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

使用者が天ぷら油を鍋に入れ、加熱している最中に、こんろの火を消し忘れて放置したため、天ぷら油が過熱されて発火したものと考えられる。なお、当該製品は調理油過熱防止装置が付いていないガスこんろであった。



(2) 調理油が過熱し発火（安全装置有）

2014年1月（東京都、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

ガスこんろを使用中、ガスこんろ及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

汚れなどが付着した鍋で少量の油を使って調理していたため、温度センサーの検知温度と実際の油の温度に差が生じ、安全装置が機能する前に油の発火温度に至り、発火したものと考えられる。

(3) グリルの消し忘れや放置により庫内が過熱し発火

2016年6月（埼玉県、60歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

ガスこんろのグリルで魚を焼いていたところ、グリルの内部から出火した。

【事故の原因】

グリル庫内で長時間加熱されたため、庫内の魚や脂分などが発火し、内部が焼損したものと考えられる。使用者は調理中にその場を離れていた。



(4) こんろ周囲に燃えやすいものを置いていたため発火

2014年9月（栃木県、年齢・性別不明、死亡）

【事故の内容】

ガスこんろ付近から出火して建物を全焼し、1名が死亡した。

【事故の原因】

ガスこんろに鍋をかけて調理していた際、ガスこんろの周辺にあった可燃物に着火し、焼損したものと考えられる。

(5) グリル庫内の汚れが発火

2017年10月（三重県、70歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

ガスこんろで調理中、グリル庫内から火が出て製品と周辺を焼損した。

【事故の原因】

使用者が誤ってグリルを点火させ、その場を離れていたため、グリル水受け皿にたまった食材のかす及び油脂類が過熱して発火し、出火に至ったものと考えられる。

(6) 漏れて滞留したガスに引火

2017年4月（埼玉県、年齢不明・男性、軽傷）

【事故の内容】

ガスこんろを使用中、製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

使用者が煮こぼれなどを放置したために、炎口が腐食して狭くなり、点火しにくい状態になっていた。そのため、こんろの操作ボタンを押し続ける操作を複数回行ったときに出たガスがこんろ上部に滞留し、再度の点火操作により引火したものと考えられる。

(7) 着衣に着火

2017年7月（神奈川県、80歳代・女性、軽傷）

【事故の内容】

ガスこんろを使用中、使用者の着衣に着火し、やけどを負う火災が発生した。

【事故の原因】

使用者がガスこんろに寄り掛かって使用していたため、こんろの火が着衣に着火したものと考えられる。



目に見える炎（左図）よりも広い範囲（右図）が高温になっている

ガスこんろの気を付けるポイント

○使用中はその場から離れない

ガスこんろの事故の多くは使用者がガスこんろから離れた際に発生しています。調理油の発火やグリルの火災などは数分間目を離しただけでも発生するため、ガスこんろの使用中は絶対にその場から離れないでください。

○こんろの周囲に燃えやすいものを置かない

こんろの上や周囲にタオルや布巾、樹脂製の水切りかごなどの燃えやすいものやスプレー缶などを置かないでください。下の写真に示すように、炎の付近は目に見えている以上に広い範囲で高温になるため、周囲の燃えやすいものに着火するおそれがあります。



目に見える炎（左図）よりも広い範囲（右図）が高温になっている



（写真）ガスこんろで加熱中の鍋を赤外線カメラで見た様子（右が赤外線カメラの画像。緑の部分が高温の部分）

○衣服への着火に注意する

調理中は、マフラーなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、炎に接しないよう特に注意してください。また、火が接しても着火しにくい防災品のエプロンやアームカバーを使うことで、調理中の着衣着火の防止に繋がります。

○グリルは使用後、こまめに掃除する

グリルを使用した後は、グリル受け皿や焼き網、庫内側面などにたまった食品かすや油脂を取り除き、こまめに掃除してください。食品かすや油脂などが付着していると、過熱されて発火するおそれがあります。

また、受け皿に水を入れる必要があるグリルは、必ず水を入れて使用してください。水が無いと、受け皿にたまった油が過熱されて発火するおそれがあります。



（写真）グリル庫内にたまった汚れ（イメージ）

（参考）ガスこんろお手入れ動画

一般社団法人 日本ガス石油機器工業会HP

<http://www.jgka.or.jp/consumer/gasu-riyou/maintenance/gasukonro/cooktop/index.html>

○庫内で調理物が発火したときは、グリルの扉を開けない

庫内で調理物が発火したときは、操作ボタンや器具栓つまみを消火の状態に戻し、炎が消えるまで扉を開けないでください。扉を開けると空気が供給され、炎が大きくなり、やけどを負ったり周辺を焼損したりするおそれがあります。



○煮こぼれや油汚れが生じた場合はきれいに拭き取る

調理中に生じた煮こぼれや油汚れは、きれいに拭き取ってください。

ガスこんろの場合は、煮こぼれによりバーナーキャップの炎口部がふさがれ、点火不良や異常燃焼、不完全燃焼の原因となることがあるため注意が必要です。

また、煮こぼれなどが温度センサーに付着すると、正確な温度を測ることができず、調理油過熱防止装置が正しく働かなくなるおそれがあります。

(参考) バーナー部について

注) 以下の写真は構造を示すためのもので
事故とは関係ありません。



○ガス臭いときは点火しない

パッキンの経年劣化などでガスが漏れることがあります。ガス臭いときは絶対に火を点けず、販売店やガス事業者に連絡し、点検を受けてください。

○点火しにくいなどで再点火するときは、周囲にガスがなくなるまでしばらく待つ

点火しにくい際に、点火操作を繰り返すとこんろ周辺にガスがたまり、再点火の際にたまったガスに引火して大きな炎が上がる場合があります。火災に至ったり、やけどを負ったりするおそれがあるため、こんろ周囲にたまったガスがなくなるまでしばらく待ってから再点火してください。

○ガス漏れに対する、ガス警報器の警告機能やガスメーターの遮断機能を適切に管理する

ガス警報器はガス漏れを検知し警告を行い、ガスメーターはガス漏れを検知してガスの遮断を行います。それぞれに交換時期が定められています。ガス警報器は使用者が交換期限を確認して交換を行う必要があります。ガスメーターは交換時期が近づくとガス事業者より案内が届きますので、それに従って交換を行ってください。

(参考) 操作ボタンのロック機能について

一部の機種には、操作ボタンをロックして誤操作を防止するロック機能を有しているものがあります。不使用時や不在時は操作ボタンをロックし、ガス栓を閉めてください。子どもがこんろの操作ボタンを押したり、ペット（犬、猫など）が操作ボタンを押したことにより、こんろの周辺にあった可燃物が燃えて火災に至った事例があります。



出典：JGKA ホームページより

リコール製品による事故を防ぐために

リコール製品による事故を防ぐため、お持ちの製品がリコール対象かどうかを確認してください。

リコール製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入事業者にご相談してください。

NITE ホームページにおいて、1989 年度以降に製造事業者、販売事業者などの事業者が行ったリコール情報を収集したデータベースを公開しており、リコール情報の検索を行うことができます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jiko-db/recall/search/>

検索サイトを利用する場合は、「NITE リコール」などの単語で検索してください。

また、ガス・石油機器については一般社団法人日本ガス石油機器工業会ホームページで検索を行うことができます。(http://www.jgka.or.jp/recall/index.html) 検索サイトを利用する場合は、「JGKA リコール」などの単語で検索してください。



お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 小田
担当 リスク評価広報課 柿原、向井

- 記者説明会当日
電話：03-3481-6566 FAX：03-3481-1870
- 記者説明会翌日以降
電話：06-6612-2066 FAX：06-6612-1617

事故原因区分について

本文中では、事故原因区分を以下の表のように分類しています。

事故原因区分一覧

| | 区分記号 | 本文表記 | 事故原因区分 |
|------------|------|----------------------|---|
| 製品に起因する事故 | A | 設計、製造又は表示などに問題があったもの | 専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの |
| | B | 製品及び使い方に問題があったもの | 製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの |
| | C | 経年劣化によるもの | 製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの |
| | G3 | 製品起因であるが、その原因が不明のもの | 製品に起因するが、その原因が不明なもの |
| 製品に起因しない事故 | D | 施工、修理又は輸送などに問題があったもの | 業者による工事、修理、又は輸送中の取扱いなどに問題があったと考えられるもの |
| | E | 誤使用や不注意によるもの | 専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの |
| | F | その他製品に起因しないもの | その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係すると考えられるもの |
| その他 | G | 原因不明のもの（G3は除く） | 焼損が著しいなどによって、原因が特定できず不明なもの 事故品が入手できないなど調査が行えないもの |
| | H | 調査中のもの | 調査中のもの |

ガスこんろの事故における死亡・重傷事故の概要について

以下に参考情報として、死亡・重傷事故の概要を示します。

() 内は事故原因区分です。(別紙 1「事故原因区分について」参照)

■死亡事故

| no | 発生日 | 品名 | 発生場所 | 被害者 | 使用期間 | 事故内容 (原因区分) |
|----|--------------------|-------|------|----------------|------|--|
| 1 | 2013/05/28 | ガスこんろ | 岩手県 | 乳幼児・男性 死亡 | 10 年 | 建物を全焼する火災が発生し、1 名が死亡した。製品の右側こんろ上に置いていたフライパンの油が過熱されて出火し、火災に至った。(F) |
| 2 | 2013/07/01 | ガスこんろ | 群馬県 | 90 歳代・女性 死亡 | 18 年 | 建物を全焼する火災が発生し、1 名が死亡した。使用状況が不明であり、焼損が著しく、確認できない部品もあることから、製品起因か否かを含め、原因の特定には至らなかった。(G) |
| 3 | 2013/07/04 | ガスこんろ | 香川県 | 50 歳代・女性 死亡 | 7 年 | 集合住宅の 2 棟を全焼、3 棟を半焼する火災が発生し、1 名が死亡、3 名が負傷した。ガスこんろで天ぷらを揚げた後、使用者が火を消し忘れたため出火した可能性もあるが、当該製品の焼損が著しく、製品起因か否かを含め、原因の特定には至らなかった。(G) |
| 4 | 2014/09/18 | ガスこんろ | 埼玉県 | 年歳・性別不明 死亡 | 不明 | 建物を全焼する火災が発生し、1 名が死亡、1 名が軽傷を負った。ガスこんろで鍋を掛けたままその場を離れ、こんろの熱により周囲の可燃物に着火して、火災に至ったものと考えられる。(E) |
| 5 | 2015/02/00 日付不明 | ガスこんろ | 奈良県 | 70 歳代・男性 死亡 | 24 年 | 建物を全焼する火災が発生し、1 名が死亡した。ガスこんろは焼損が著しく器具栓がすべて溶融していたため、製品起因か否かを含め、事故原因の特定には至らなかった。(G) |

| no | 発生日 | 品名 | 発生場所 | 被害者 | 使用期間 | 事故内容（原因区分） |
|----|------------|-------|------|----------------|------|---|
| 6 | 2016/02/11 | ガスこんろ | 山口県 | 80 歳代・男性 死亡 | 不明 | ガスこんろと周辺を焼損する火災が発生し、1 名が死亡した。ガスこんろ内部の焼損が著しく、事故発生時の状況が不明なことから、製品起因か否かを含め、事故原因の特定には至らなかった。(G) |
| 7 | 2017/01/20 | ガスこんろ | 埼玉県 | 60 歳代・男性 死亡 | 不明 | ガスこんろと周辺を焼損する火災が発生し、1 名が死亡した。ガスこんろ上に可燃物を置いたままグリルを使用したため、排気口から排出された高温の排ガスで発火し、火災に至ったものと推定されるが、事故発生時の詳細な状況が不明のため、製品起因か否かを含め、事故原因の特定には至らなかった。(G) |
| 8 | 2018/02/22 | ガスこんろ | 大阪府 | 80 歳代・女性 死亡 | 25 年 | 当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。原因を調査中 (H) |
| 9 | 2018/04/23 | ガスこんろ | 宮崎県 | 年齢不明・女性 死亡 | 不明 | 建物を全焼する火災が発生し、1 名が死亡、1 名が軽傷を負った。当該製品の焼損は著しく、器具栓がすべて熔融していたため事故発生時の使用状況は不明であり、また、確認できない部品があったことから、製品起因か否かを含め、事故原因の特定には至らなかった (G) |
| 10 | 2018/11/02 | ガスこんろ | 福岡県 | 60 歳代・男性 死亡 | 15 年 | ガスこんろ付近から出火し、住宅を全焼して、1 人が死亡した。原因を調査中 (H) |
| 11 | 2019/01/13 | ガスこんろ | 兵庫県 | 年歳・性別不明 死亡 | 不明 | ガスこんろ及び周辺を焼損する火災が発生し、1 名が死亡した。原因を調査中 (H) |

■重傷事故

| no | 発生日 | 品名 | 発生場所 | 被害者 | 使用期間 | 事故内容（原因区分） |
|----|--------------------|-------|------|----------------|------|---|
| 1 | 2013/05/03 | ガスこんろ | 神奈川県 | 90 歳代・男性 重傷 | 11 年 | ガスこんろ及び周辺を焼損する火災が発生し、1 名がやけどを負った。当該製品の使用状況が不明なことから、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に異常が認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。(F) |
| 2 | 2013/05/08 | ガスこんろ | 静岡県 | 40 歳代・男性 重傷 | 2 年 | 建物を全焼する火災が発生し、1 名が重傷を負った。当該製品の詳細な使用状況が不明であるため、事故原因の特定には至らなかったが、当該製品に出火に至る異常は認められないことから、製品に起因しない事故と推定される。(F) |
| 3 | 2013/08/04 | ガスこんろ | 埼玉県 | 年齢不明・女性 重傷 | 7 年 | ガスこんろ及び周辺を焼損する火災が発生し、1 名が重傷を負った。使用者が当該製品の周囲に可燃物を置いた状態で調理したために、バーナーの火が可燃物に燃え移り、火災に至った。(E) |
| 4 | 2014/01/02 | ガスこんろ | 群馬県 | 70 歳代・女性 重傷 | 20 年 | 建物を全焼する火災が発生し、1 名が重傷を負った。当該製品は焼損が著しく、詳細な使用状況も不明であることから、製品起因か否かを含め、事故原因の特定には至らなかった。(G) |
| 5 | 2014/03/00 日付不明 | ガスこんろ | 大阪府 | 60 歳代・男性 重傷 | 7 年 | ガスこんろを点火したところ、衣服に着火し、1 名が重傷を負った。使用者が調理時に右手をこんろに近づけ過ぎたため、袖に着火しやけどを負った。(E) |

| no | 発生日 | 品名 | 発生場所 | 被害者 | 使用期間 | 事故内容（原因区分） |
|----|------------|-------|------|----------------|------|--|
| 6 | 2014/04/26 | ガスこんろ | 愛知県 | 30 歳代・女性 重傷 | 2 年 | ガスこんろで揚げ物を調理中、フライパンが落下し、1名が重傷を負った。フライパンをごとくの中央から大きくずれた位置に置き、フライパンの取手を持たずに菜箸で調理物をかき混ぜていたため、菜箸がフライパンの底に触れた際にバランスが崩れて落下し、油が溢れてやけどを負った。（E） |
| 7 | 2014/10/16 | ガスこんろ | 東京都 | 年齢不明・女性 重傷 | 3 カ月 | ガスこんろを使用中、やかんを移動した際、衣服に着火し、1名が重傷を負った。やかんを当該製品の左側にある流し台に移動した際に、こんろの炎が寝間着の上着の裾に着火し、事故に至った。（E） |
| 8 | 2015/12/02 | ガスこんろ | 鹿児島県 | 70 歳代・女性 重傷 | 1 カ月 | ガスこんろから炎が上がリ、1名が重傷を負う火災が発生した。事故当時の状況は不明であるため、事故原因の特定には至らなかったが、製品に異常は認められず、製品に起因しない事故と推定される。（F） |
| 9 | 2016/10/05 | ガスこんろ | 福岡県 | 80 歳代・女性 重傷 | 不明 | ガスこんろを使用中、ガスこんろ及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が重傷を負った。詳細な使用状況が不明のため事故原因の特定には至らなかったが、ごとく上に置かれた電気コーヒーマーカーが当該製品の火等により燃え、出火に至ったものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。（F） |
| 10 | 2018/02/03 | ガスこんろ | 岩手県 | 年齢・性別不明 重傷 | 不明 | 爆発を伴う火災が発生し、建物が全壊し、1名が重傷、2名が軽傷を負った。原因を調査中（H） |

| No | 発生日 | 品名 | 発生場所 | 被害者 | 使用期間 | 事故内容（原因区分） |
|----|------------|-------|------|---------------|------|--|
| 11 | 2018/09/26 | ガスこんろ | 愛知件 | 年齢・性別不明 重傷 | 不明 | ガスこんろ及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が重傷を負った。 原因を調査中（H） |
| 12 | 2018/12/06 | ガスこんろ | 東京都 | 年齢・性別不明 重傷 | 不明 | ガスこんろ及び周辺を焼損する火災が発生した。 原因を調査中（H） |

参考情報

図 5 に「年度別 事故事象別 事故発生件数」を示します。

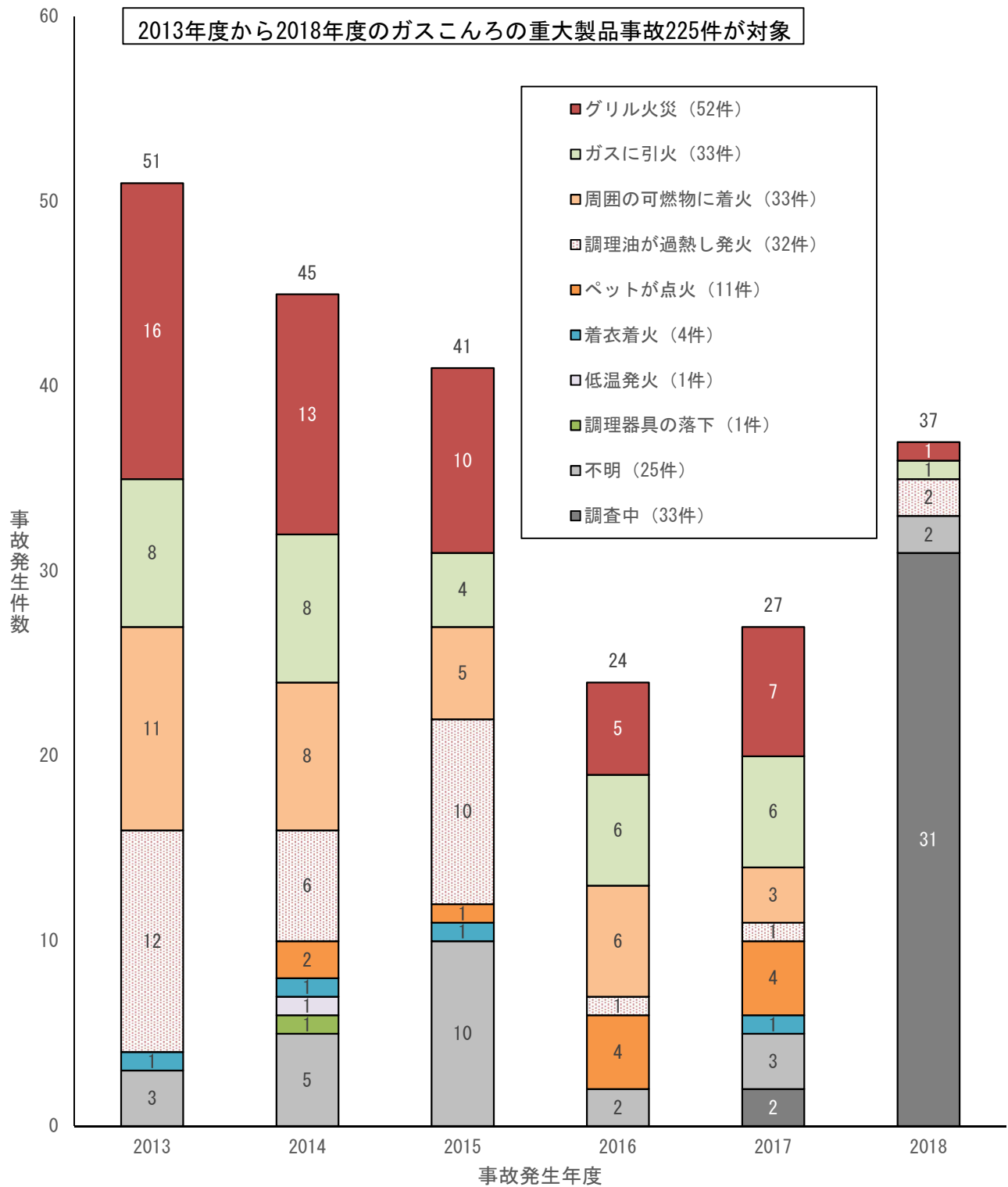


図 5 年度別 事故事象別 事故発生件数

リコール情報

【事業者】

株式会社パロマ (法人番号：4180001009176)

株式会社パロマ

社告ページへのリンク



【製品名及び型式】

家庭用組込型ガスこんろ

株式会社パロマ

PD-900WR-60CK PD-900WR-75CK

PD-900WV-60CV PD-900WV-75CV

PD-900WV-60GV PD-900WV-75GV

タカスタンダード株式会社

TAF900WV60C TAF900WV75C

【公表日】

2015年7月15日

【製造等期間】

2013年8月から2014年7月

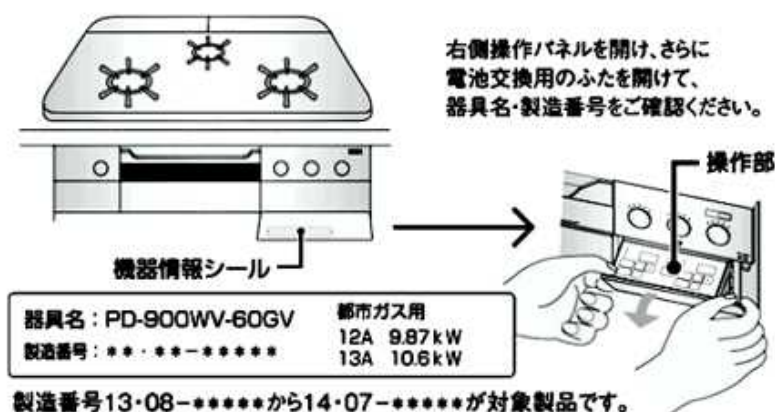
【社告等の内容】

当製品において、きわめてまれにガスが微量に漏れる可能性があることが判明。

【対処方法】

点検 (部品の無償交換)

【リコール製品の確認方法】



【事業者リコール情報】

https://www.paloma.co.jp/important/info_repair/2015/201507.html

【問い合わせ先】

株式会社パロマ

・フリーダイヤル：0120-314-552

受付時間：09:00~18:00 (平日・土曜・日曜・祝日ともに)